



# 陸域・海域一体となった海ごみ対策

Marine Litter Countermeasures:  
A United Approach Across Land and Sea

香川県環境森林部環境管理課 課長補佐 大倉恵美

2016.1.24 新春 海ごみシンポジウム



- 瀬戸内海(閉鎖性海域)に面している
- 昔から、瀬戸内海と関わりながら暮らしてきた(道・畑・庭)

# ~ 瀬戸内海 ~



海ごみ

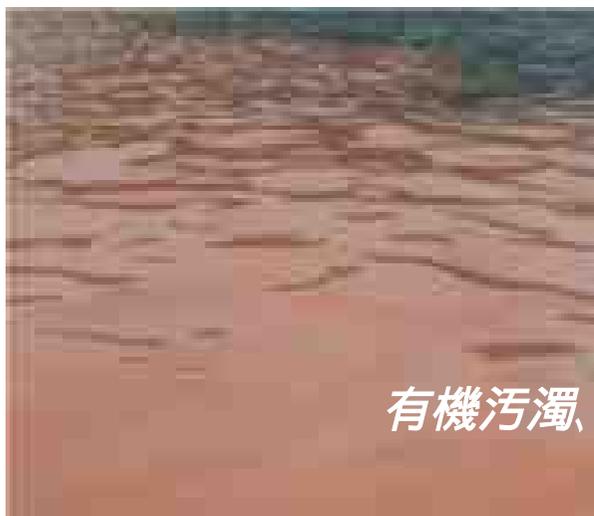


人の関わりの希薄化



しかし、私たちの身近な海は、様々な課題を抱えている

有機汚濁、栄養塩...



依然少ない藻場



(c)Ikuo Nakamura

海から持続可能な暮らしや社会を考える 全県域の「里海づくり」

全国初！

「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」に 関わりの再構築



かがわの里海づくり

H27.12

環境省主催

第3回グッドライフアワード

「環境大臣賞優秀賞」受賞

H27.10

プラチナ構想ネットワーク主催

第3回プラチナ大賞

「審査委員特別賞」受賞

取組方針

全県域で 県民みんな で 山・川・里(まち)・海をつなげる

海域(沿岸域)での取組みから  
陸域(内陸部)まで含めた一体的な取組みへ



# 香川県の海ごみ対策

平成13年度から本格的「海ごみ」対策スタート  
平成25年度から陸域・海域一体となった海ごみ対策へ

H14.1	香川県海上散乱ごみ処理対策等推進会議設置
H14	「さぬき瀬戸」パートナーシップ事業開始
H14	さぬき瀬戸クリーンリレー開始
H14-15	緊急雇用創出基金を活用した海岸散乱ごみの実態調査及びマップ作成
H21.7	海岸漂着物処理推進法制定
H22.3	香川県海岸漂着物対策等推進協議会設置(再編)
H22-23	地域グリーンニューディール基金(環境省)を活用した体験学習等の実施
H23.3	香川県海岸漂着物対策等推進計画策定
H25.4	「かがわの里海づくり」スタート
H25.5	香川県海ごみ対策推進協議会設置(再編)
H25-26	海岸漂着物地域対策推進基金(環境省)を活用した調査研究、広報活動、体験学習、リーダー育成講座等の実施
H27	地域環境保全対策費補助金(環境省)を活用した調査研究、広報活動、ワークショップ、海ごみツアー開発、リーダー育成講座等を実施

# 取組みの概要

回収  
処理

発生  
抑制

## 海岸漂着物等

県・市町の海岸管理者が、住民・漁業者等関係者の協力を得て回収・処理を実施。

・パートナーシップ事業等

H27年度から、**離島の海ごみ対策**を重点的に実施。

## 漂流ごみ

国や県の海面清掃船などにより回収・処理を実施。

## 海底堆積ごみ

H25年度から、協議会にて関係者協働による**香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム**を構築、推進。  
(底びき網禁止区域も補助事業新設等により対応)

- 調査研究(川-海面-海底-海岸)
- 参加型海ごみ調査
- H26年度から、**県内一斉海ごみクリーン作戦「さぬキラ」**実施

- 次世代育成
- 専門家・リーダー育成
- 広報活動

## 海底堆積ごみ対策

[課題] 海底堆積ごみは、回収・処理責任が法的に明確でなく、全国的にほぼ手つかずの状況。しかし、瀬戸内海の海底には、既に13,000トン以上\*ものごみが堆積。 \*平成18年度瀬戸内海海ごみ対策検討会報告書



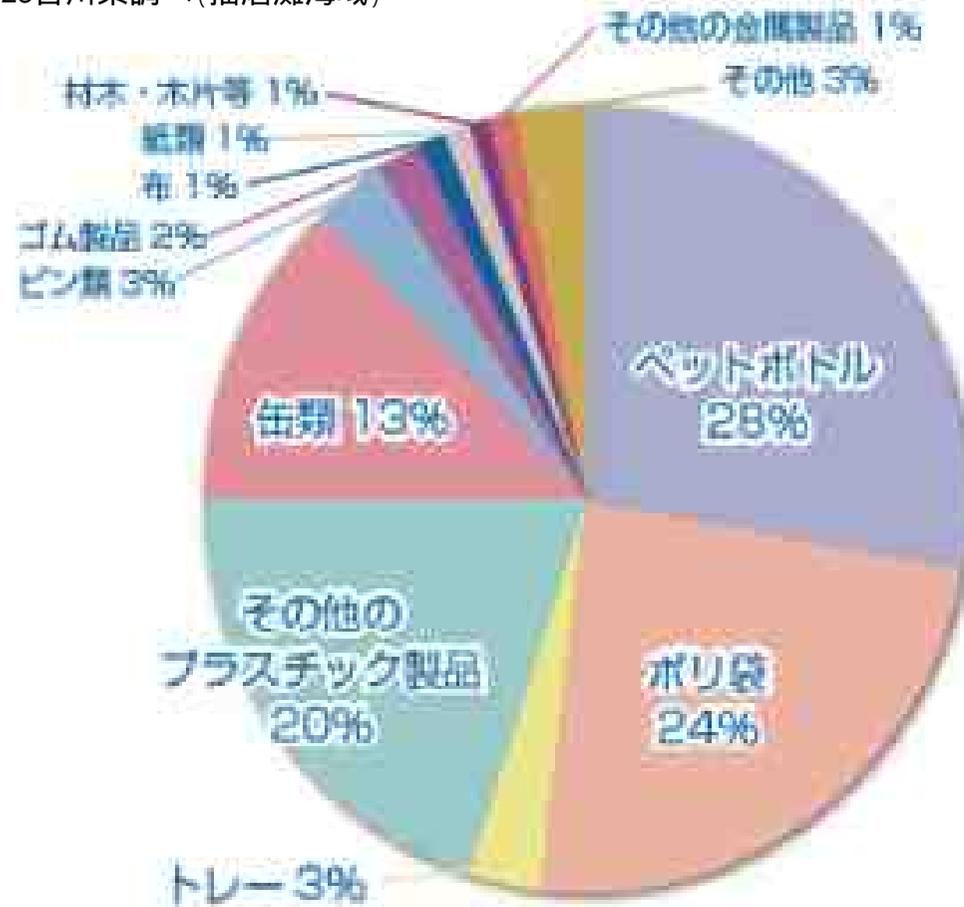
# 瀬戸内海における海洋ごみ収支\*

\* 藤枝ら「瀬戸内海における海洋ごみの収支」沿岸域学会誌, Vol.22(4), pp.17-29.2010



## 海底ごみの種類（個数）割合

H23香川県調べ（播磨灘海域）



多くは、瀬戸内海沿岸に住む私たちの生活ごみである。

# 香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム



漁業者がボランティア  
で持ち帰り

行政(沿岸市町と  
県)が運搬・処理

行政(内陸部を含む  
全市町と県)が処理  
費用を負担



底びき網漁業の操業禁止区域については、  
幼稚魚の生育の場を保全するという観点  
から、水産部局において海底堆積ゴミ回収  
事業等に取り組んでいる。

回収量 H25:17トン H26:18トン

# 行政が動けなかったのは、なぜか？

総論賛成・各論反対・・・理由がないと動けない！

## 1) お金を出す理由の明確化

- ・「海ごみ = 生活ごみ」という理解
- ・海から陸を見るという視点の転換
- ・みんなが当事者・原因者

## 2) 参加のハードルを低めに設定

- ・市町の負担金を低く設定  
年間3万～24万(既存予算内で対応できる)

## 3) 担当者に説得材料を提供

- ・説明できる資料、データの提供

## 漁業者の積極的関わり(無償参加)の実現

- 1) 全体、個別説明を丁寧に実施
  - 2) 漁業者にとってのメリット提示
  - 3) 参加のハードルを低めに設定
    - ・細かい参加設定は漁協ごとに
    - ・全員参加しなくてよい
- 「やれる人がやれることから」



H25:17漁協 H26:19漁協 着実に増えている

- メリット、理由を明確にする
- 参加のハードルを低めに設定する
- 当事者の実状に合わせる

やっていると、周りに影響がでる

新たな参加が増える

影響がひろがっていく

= 持続可能性を創っていく

# 県内一斉海ごみクリーン作戦「さぬ キラ」

[課題] 海への関心や、山・川・里(まち)・海のつながりの意識が希薄化。

身近なごみを拾うことが、実は海ごみを減らすことにつながっています。  
ごみのないきれいで豊かな海を目指して、山・川・里(まち)・海でクリーン活動しよう！

H26年度

開始式: 10.26(日) 参加者数625人

期間: 10.26(日) ~ 11.9(日)

参加者数: 58千人 回収量: 86トン

H27年度

開始式: 10.25(日) 参加者数746人

期間: 10.25(日) ~ 11.8(日)

参加者数等: 集計中

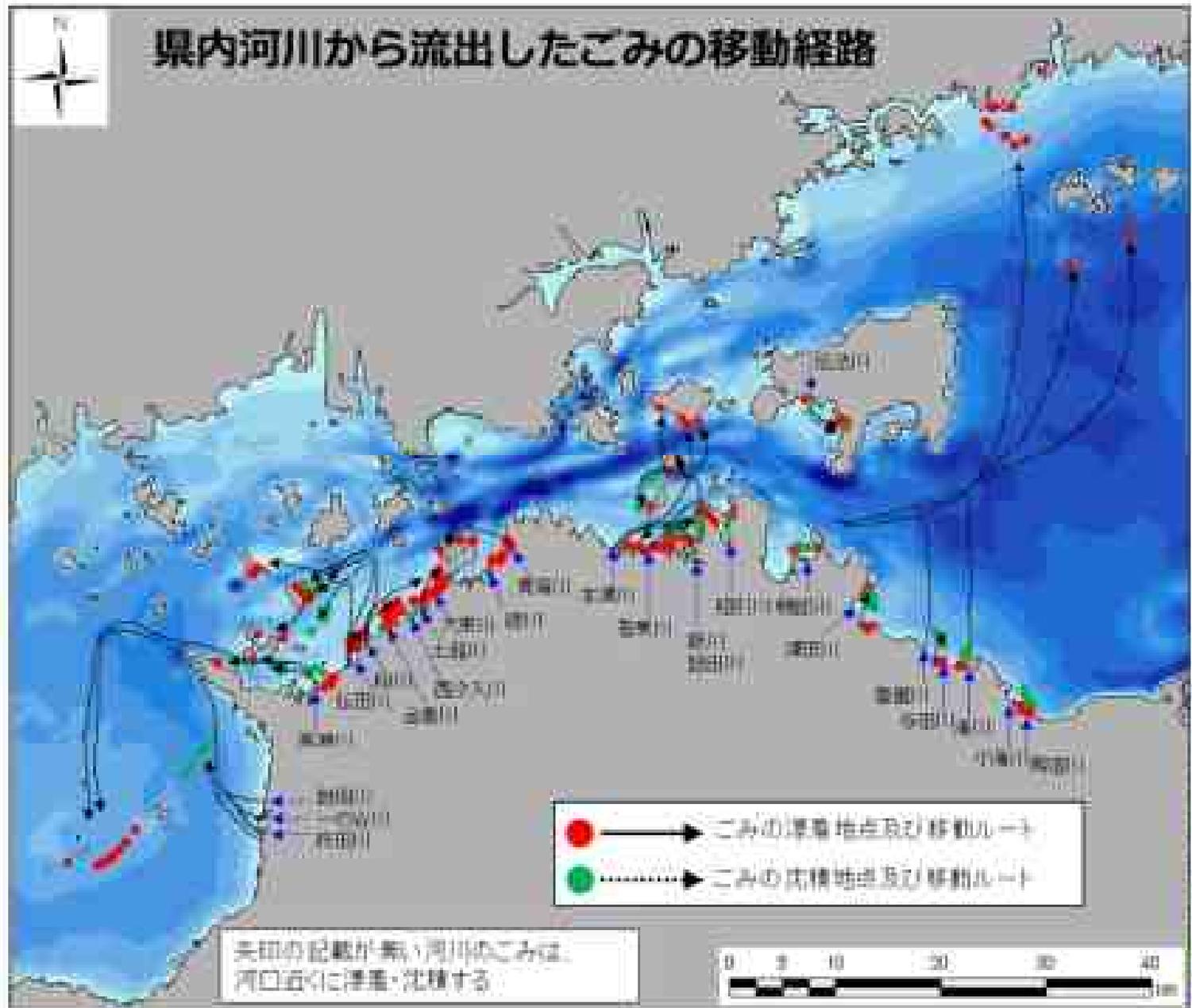


## 離島の海岸ごみ対策

[課題] 潮流等の影響で地形的に海ごみの漂着しやすい離島海岸があり、このような海岸で回収・処理を行うことは効果的。しかし、離島では高齢化・過疎化が進み、また、運搬等の問題もあり回収・処理が通常より困難。

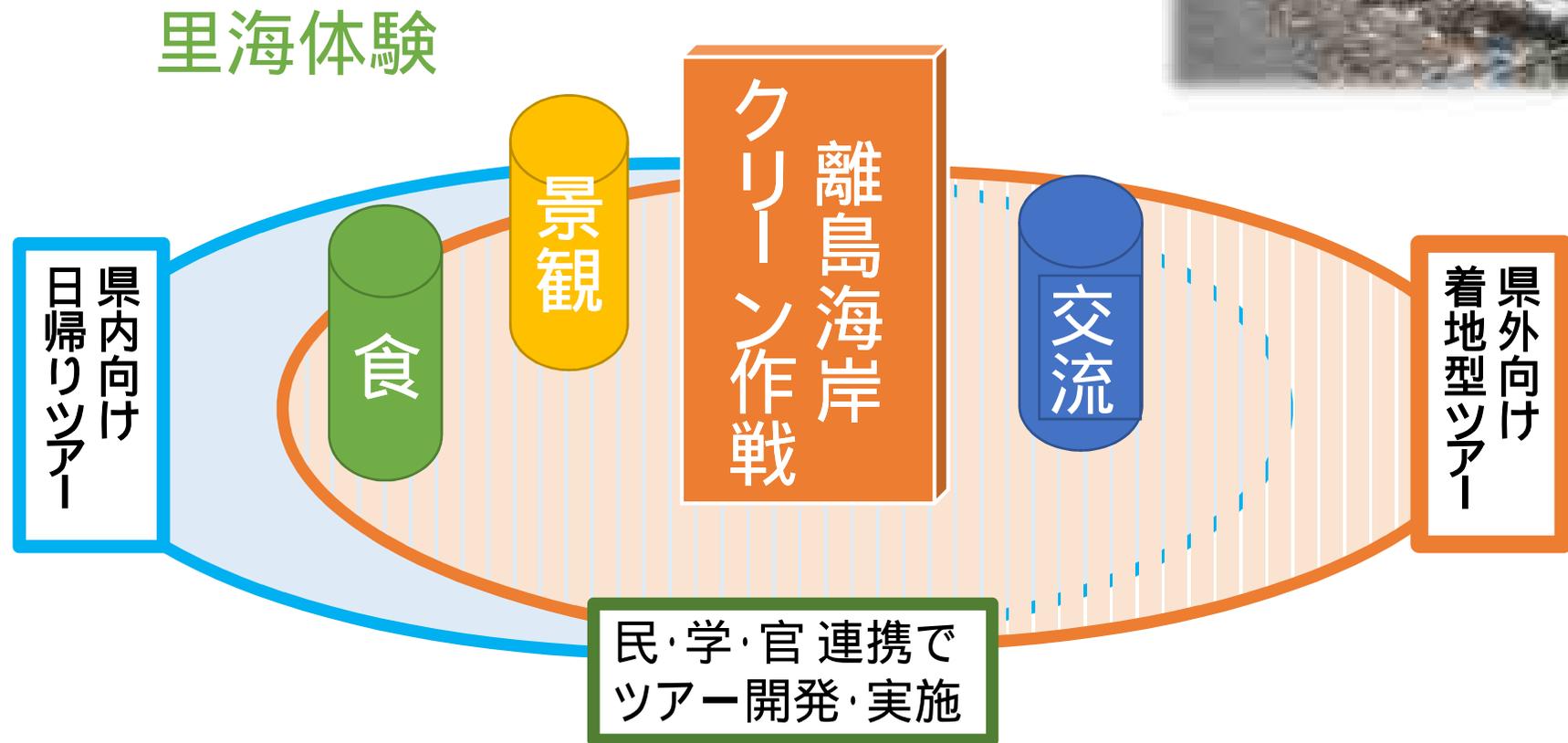


# ごみの漂流予測シミュレーション結果



# 離島の海ごみ回収・処理システム

海ごみが漂着しやすいが回収困難な離島において  
海ごみを資源として商品開発→定期的に回収・処理できるシステム構築



離島の海ごみツアー「瀬戸内海・離島の海ごみ物語」

## < 女木島編 >

【日時】H27.11.14(土) ~ 11.15(日)

県内向けは11.14のみ

【内容】海岸でのスポーツごみ拾い

海面清掃船みずき 体験乗船

地元漁師さんとの交流会など

【参加者】県外7名 県内13名

## < 栗島編 >

【日時】H27.11.28(土) ~ 11.29(日)

県内向けは11.28のみ

【内容】ビーチクリーンアップ&コーミング

地元アーティストによるクラフト講座

地元漁師さんのお魚さばき方教室

漂流郵便局見学など

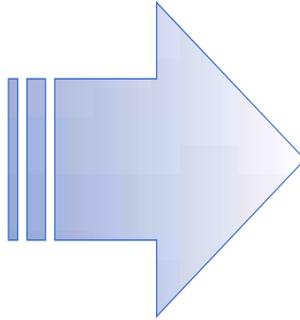
【参加者】県外10名 県内16名





女木島でのクリーン作戦  
回収113袋・470kg (/17t)





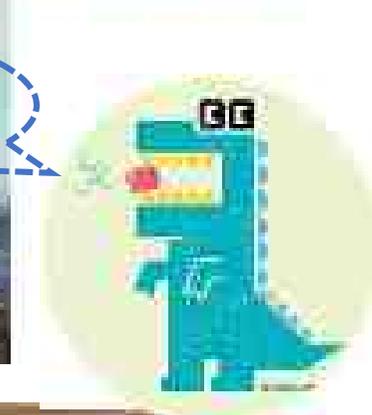


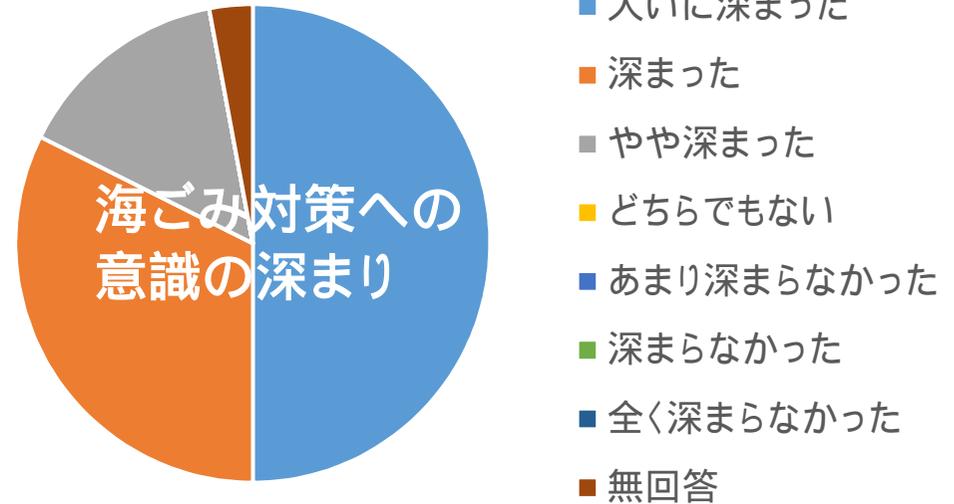
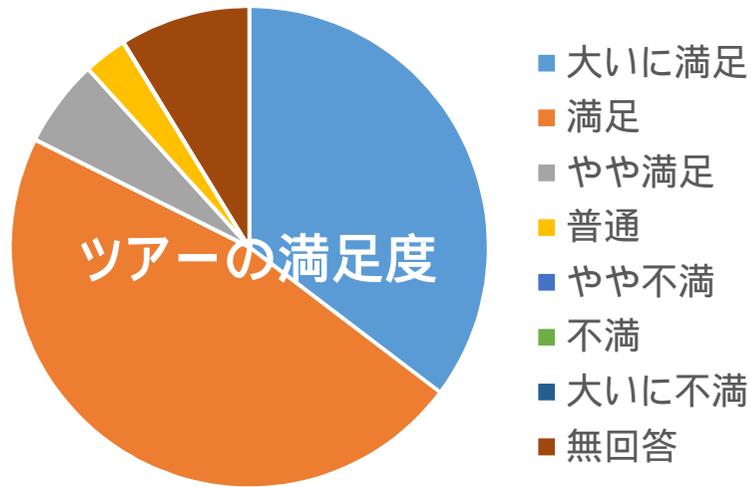
地元の漁師さん  
との交流会





2日目は男木島へ





## 《 参加者の声 》

### 今回のツアーで気づいた点

- ごみが多かった。
- 粟島や香川の皆さんとふれあいや話をできたことが貴重な体験だった。島の人々の為にも海ごみを減らしたい。

### 今後、海ごみ問題に関して自身でどのような取組みができると思いますか？

- 自分自身がごみの発生源にならないことはもちろん、周囲の人へも広げていく。
- ゴミを増やさないよう、買い物に気をつける。
- 子どもやその友達などに、今回のツアーのことや環境のことを繰り返し話をしていきたい。
- 海ゴミで色々なものを表現、再利用する方法などを考える。

# 次世代育成(体験学習・ワークショップ・教材等)



# 専門家・リーダー養成



# 海ごみ探検隊等による広報活動



# 調査研究(専門・参加型)



# カマタマーレ × 海ごみ 「海ごみ拾ッターレ讃岐」



H27年3月22日(日)沙弥島・香東川 参加者:83名 回収量:70ℓごみ袋70袋

# 瀬戸内海歴史民俗資料館 × 海ごみ

## テーマ展示

「“里海”からのメッセージ - 海ごみと寄り物 -」展 (開館日数 82日 3,329人)

【とき】H27年9月19日(土)～12月20日(日)

【内容】備讃瀬戸の里海を紹介する展示。海から漂着した伝承をもつ神仏や海ごみに焦点をあて紹介。

## れきみん講座・講演会

瀬戸内の寄り物と人々の暮らし (聴講者数 19名)

H27年9月26日(土)13:30～ / 講師:主任専門職員 田井静明

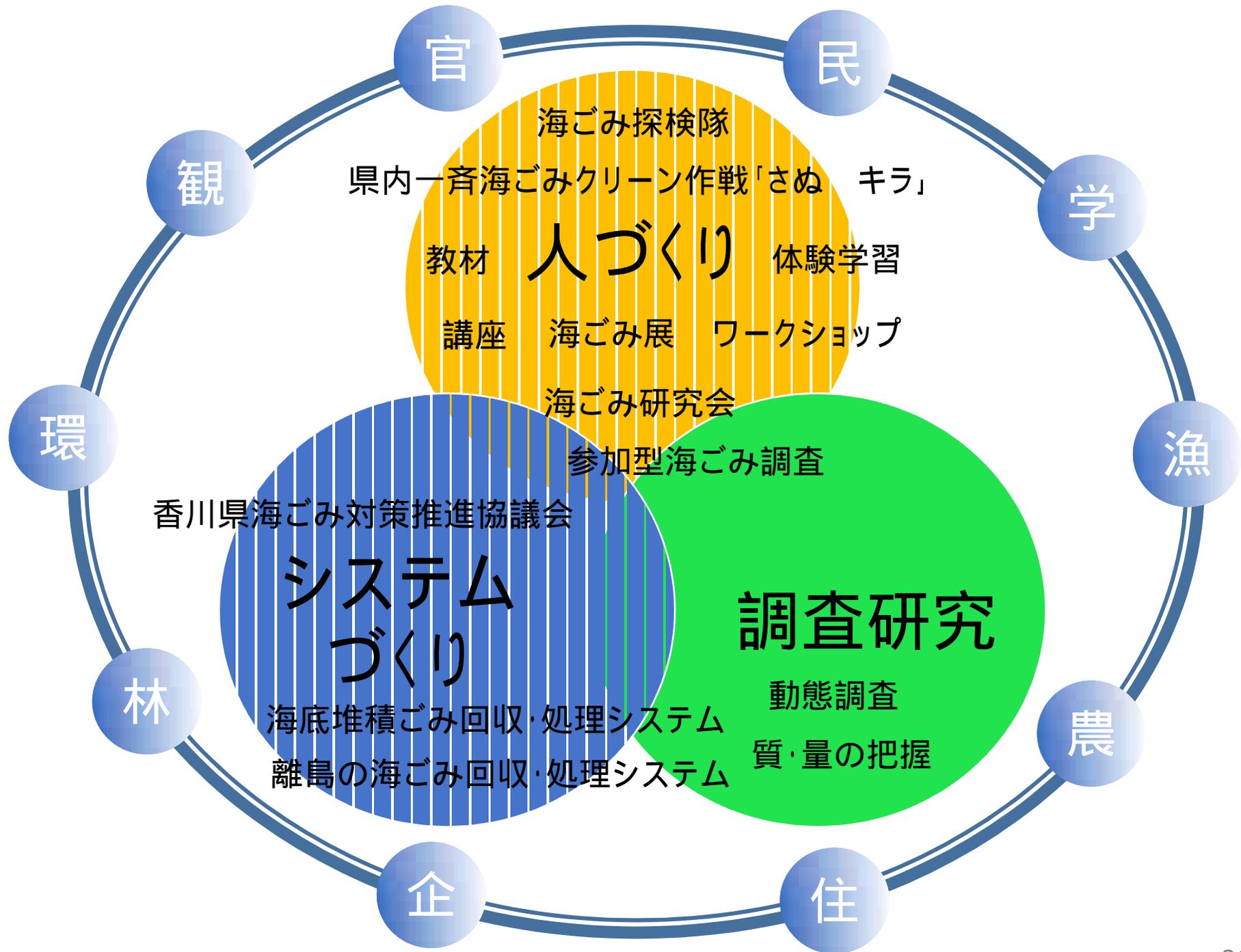
備讃瀬戸の海底ごみ調査から (聴講者数 22名)

H27年10月12日(月・祝)13:30～ / 講師:山陽女子中学校・高等学校

地歴部顧問 井上貴司史氏

瀬戸内海の家ごみ (聴講者数82名)

H27年11月7日(土)13:30～ / 講師:漂着物学会事務局長 藤枝繁氏



# 1000年先の未来へ。

美しい里、豊かな海



*satoumi*  
*project*

Seto Inland Sea, Kagawa

海ごみ発生抑制CM《香川県》

